



2020年7月5日主日礼拝

日本同盟基督教団 クリスチャンプレイズチャーチ

## 【祝福される幸いな家庭の十戒(2)】

(真の神様のみを礼拝する家庭)

説教者: 鄭南哲牧師

聖書: 出エジプト記20章4-6節/暗唱聖句: 出エジプト記20章6節 (Rev.Jung nam-chul)

愛するみなさん!一週間も梅雨の大雨の中みなさんと家庭は変わりなくお元気でしたか。みなさんの心と思いがキリストイエスの平安で守られたでしょうか。祝福され幸いな家庭作りがとても難しいこの時代にどうすれば我々の家庭が祝福され守られて生のかを、先週からは旧約聖書の十戒を通して学んで来ています。詩篇127篇1-3節の御言葉のように、**「主が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはすべてむなしくなり、早く起きるのも、遅く休むのも、辛苦の糧を食べるのも、それはむなしくなりますが、主はその愛する者には、眠っている間に、このように備えてくださる。子どもたちは主の賜物、胎の実は報酬である。」**と聖書に書かれたように、結局のところ、我が家庭の祝福と幸福は、神様との関係にすべてがかかっていることを教えられました。つまり、我々の家庭が真の唯一なる創造主の神のみを信じ、我々の家庭の祝福されるために与えて下さった神の戒めを聞き従う事により、我々の家庭は本来神様がデザインされた通りの神様が祝福される幸いな家庭と新たにされることを一生忘れず心に刻んでいけるように切にお祈り申し上げます。

神からのこの十戒という戒めは、我々が救われるための原則ではなく、すでに救われた神様の人々たちのための祝福される人生の原則でありました。そして前回、申し上げたように今心から信じ、たよっている対象が今自分が拝んでいるもので自分が今拝んでいる神のような存在になれることを言いました。

### <1. やってはならないことを守ることが祝福される家庭を守る道>

創世記1章で、神は天と地を造られ、創世記2章を読んで見ますと、人をお造りなされた(2章7節)神様は人が住める最高の環境、エデンの園を与えて下さいました。**「2章9節-神である主は、その土地から、見るからに好ましく食べるのに良いすべての木を生えさせた。」**神様は人の為に備えて下さったところは、とても美しく神の平和が満ちているところでした。そこで、神様は人に働きを任せながら、この世の物を支配することが出来るように許して下さいました。

**「創世記2章15節-神である主は、人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた。」**

ところが、神様はそれに加え、人が、神に造られた人らしく、引き続き神に祝福され、祝福される家庭として神様との関係が守られていけるような道を備えて下さいましたが、そこにまず注目して見る必要があります。

**創世記2章16-17節「神である主は、人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。」**

神様は、人がエデンの園で願う通り、思うままに食べて生きることが出来ました。毎日人が気分通り、心に引かれる通り自由に食べ、飲み、暮らせば大丈夫でしたが、創造主の神様はただ一つだけは神の御心に従うことを要求されました。全てを思いのままに食べて、中央にある一つの善悪の木のみ取って食べないように、それを食べるその時、必ず死ぬことまで神様は警告されたわけです。これが、神様が人に与えて下さった初めの戒めでした。

**その戒めは、「やりなさい」ではなく、「やってはならない」ということでした。**

**人が本来の神によって造られた人らしく生きるために、本来の祝福される家庭として守られるために、神様前で人がやってはならない事を知り、守り従うことが大切であることを教えて下さっています。**

みなさん、実はよく考えて見れば、必ず「やりなさい」ということが難しいことで、「やってはならない」ということはもっとたやすいことではありませんか。いくらでも周りに食べる物は十分でした。その中でただ一つだけ食べなければ良いのです。神様は「食べてはならない」と命じられながら、食べると死ぬ(神様との霊的な関係も断絶され、体も必ず死ぬことになる)とまで警告されたのは、人の為でした。しかし、初めの人、結局、決して難しくない神の戒めを破ってしまい、すべての人は死に至ることになりました。大きな間違いではなく、ただ単純に「やってはならない」ことをやってしまったため死ぬことになりました。

神様は、モーセを通して、神を信じる民に与えて下さった律法の核心(かくしん)のところ、十戒も4番目「安息日を心に留め、これを聖別せよ。」と、5番目「あなたの父母を敬え。」以外の8つの戒めは「やりなさい」ではなく、「やってはならない」と命じられています。それをやらなければあなたとあなたの家庭、子供にまで祝福されると約束して下さいます。

**愛する信仰の家族のみなさん!十戒を通してでも、神によって造られた人として、家庭として祝福される為に、やってはならないこと、やってはいけないことが何であるかを知らなければなりません!!**

つまり、神様が禁止した線を、バウンダリーを超えないで守れば、実際すべての人々が神の祝福を受けられるでしょう。十戒でも、神様が禁じさせている内容をよく見ると、決して無理な要求でもなく、複雑とか、難しいことでもありません。

**「第六、殺してはならない。第七、姦淫してはならない。第八、盗んではならない。第九、隣人に対し、偽りの証言してはならない。第十、隣人の家を欲しがってはならない。」**みなさんにお聞きしたいですが、

**人を殺すのが楽でしょうか。殺さない方が楽でしょうか。だれかの夫がいる妻を、妻がいる夫と姦淫するのが楽ですか、しない方が楽ですか。このように、実は、神様が人に与えて下さった「やってはならない」という禁止命令は、守りにくいこ**

とではなく、人の人生が、我らの家庭が守られ、祝福されていくために、いくらでも守っていかなければならないことであり、人として守りやすいことなのです。

人が周りから避難される理由、今日の家庭が崩れてしまっている原因をよく察すると、良いことをしなかったことより、やってはいけないことをやってしまい、犯してしまったことが圧倒的に多いではありませんか。

聖書で勇士であり、力持ちの裁きつかさだったサムソンに、神様は、一生髪の毛を切らないように命じられたのにも関わらず、この一つの神の禁止命令を軽く思い破って、髪の毛が切られてから神様から与えられたすべての力を失ってしまったでしょう。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！人の力はやってはならないことをやらないことにあると信じます！人がやってはならないことをやってしまうことで、神様と人の前で堂々と立つことが出来なくなるのではありませんか。神様との関係はもちろん、夫婦関係、家族関係、全ての人との関係も、結局、何かをやってくれなかったからではなく、やってはいけない、ならないことをやってしまったから壊れるでしょう。いくら100回よくやっても、一つでも人がやってはいけないことをやってしまえば、関係は割れてしまいます。今日、人に知識が足りないからではなく、お金がないからでもありません。神の人としてやってはならないことに手出してしまったり、足を入れてしまったり、見てしまったり、やってしまったその執着の為、神様からのすべて良いものを失ってしまっているのではないのでしょうか。

まるで、アダムとエバが、食べてはならないその一つの神の禁止命令を破ってしまったことにより、エデンの園も、命も、本来の神の人らしさや祝福されるべき家庭の姿も、夫婦関係も失われてしまったようにでしょう。

ですから、今日も神の十戒は、もっとも人に大切です。神によって造られ祝福される人として、やってはいけない、やってはならないことが何であるかを神の十戒は明確に教え、よく見極めさせ分別して人が生けるその基本を我らに示して下さいます。ですから、人が本来通り祝福される人生と家庭となっていくために、もっとも大切な神様からの手引きとなると信じます。

## <2. 神様がくださる第二の戒め>

第一の戒めが礼拝の対象として唯一な創造主なる神様を強調されることであるならば、第二の戒めは礼拝の正しい方法が強調されています。つまり、第一の戒めがだれに礼拝を捧げるべきであるのかを教えているなら、第二の戒めは我々がどうやって礼拝すべきなのかを教えて下さっています。

第一の戒めが偽りの神々を警戒するようにと教えているなら、第二の戒めは偽りの礼拝するやり方を警戒するようにと教えています。今日、第二の戒めでは我々が神様の御前で真の礼拝者になるための二つの警告と二つの祝福の条件を一緒に伝えています。まず二つの警告を考えて見ましょう。

聖書の本文4節に、“あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。”

人が自分たちのため、世の中に作りあげたあれこれ色々な偶像の神々に拜んではならない。そういう風な生き方と信仰では、真の神の祝福を受け継ぐことが決してできずとおっしゃっています。

この御言葉を正しく理解するためにまず、すべき質問があります。

いったい偶像とは何であるかです。聖書の本文によると、偶像とは礼拝の対象として、人によって作られ拜まれるある形だと言えます。

ここではっきりしておくことがあります。もちろん聖書は決して教育的な目的や芸術的目的として行われる作品を禁じていません。問題は、このような作品が作品として存在するのではなく、礼拝の対象になってしまうことです。

第二の戒めとして、神はそのような礼拝の目的として人が偶像を作ったり、拜むことを禁じたのです。

## <心の中でも偶像を作り、拜まれる>

しかし、新約聖書ではそのような偶像が目に見える形や物だけではなく、我々の心の中にも存在することができると教えています。コロサイ人への手紙3章5節に“このむさぼり(貪欲)が、そのまま偶像礼拝なのです。”と教えています。

つまり、偶像は我々の心の中にもいくらでも造れるということです。

私たちの心を神様から奪い取り、ただ、それだけをむさぼる、一切の貪欲もあらゆる偶像になることができます。

その意味で、目に見える形として作って拜む偶像だけではなく、我々の心も偶像の工場になることもできるので、いつも気をつけ、よく自分を心を点検しなければなりません。

第二の戒めは拜まないだけではなく、そのような偶像の形さえも造らないようにと教えます。

5節です。“それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、”

神様がどれだけ偶像礼拝を忌み嫌われるのかを端的(たんてき)に知らせる御言葉です。

この御言葉をもとにして世界のあらゆる宗教の中で、ただ、ユダヤ教とキリスト教の中プロテスタントだけが神様を形化

することを拒む信仰を持っているのです。

礼拝のすべての時間においてご自分の臨在を約束され生きておられる神様、その方を直接、拝見し、経験できるのに、あえて礼拝の対象としてどんな形づくりが必要でしょうか。

このように仮定して見ましょう。私に会いたがるある方はいつでも私に来たら会えます。ところが、ある方が私ではなく、私の代わりに私の写真の前に行っておじぎをする場面を想像して見てください。それを続けてやる方がいるなら、私はその写真を当然やぶるべきだと思います。その写真はすでに写真ではなく偶像になってしまうからです。みなさん！この講壇の後ろにあるこの十字架も偶像にならないように気をつけましょう。もしこの十字架の形におじぎをしたり、祈る方がいるなら、この十字架はかえてかけない方が良くも知れませんが、我々が我々のために十字架にかかって死んでくださり、よみがえられたイエスキリストを信じているから、我々の礼拝する対象は十字架ではなく、十字架にかかって死んで下さって、よみがえられたイエスキリストに祈り、礼拝すべきであることを忘れないでください。ですから、私たちがつかんで礼拝するお方は十字架の形のものではなく、主イエスキリストなのです。

### <3. 祝福の二つの条件>

神様がくださった第二の戒めは警戒だけのメッセージではありません。十戒というのは人類の救いのために与えられた法則ではなく、すでに救われた主の民たちが守るべき原則だと先申し上げました。神学的にこれを聖民法(せいみんぼう)だと言いますが、神様を愛し、この神との関係を大事にし、その神の御言葉の人生の祝福をルールとしてに従って生きる者たちにはすばらしい祝福が約束されます。本文6節です。

“わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからです。”

ここに警告にまさる神様の祝福が表されています。不従順の影響は3、4代までですが、従順の恵みは千代までとはっきりと神は約束され書かれています。

愛する信仰の家族のみなさん！わたしはある人は主張するように**家系に流されるのろい**？などは決して信じません。信仰によってイエスキリストを全ての罪を赦され、救って下さる救い主として受け入れる瞬間、すでにその罪ののろいは十字架の上でやぶれ、消え去りました。イエス様が我々のかわりに十字架の上で受けるべき全ての罪の呪いと代価をご自身の身に負わせ、受けられたので、もはや、その方を信じる全ての者たちはこれ以上のろいに束縛され縛られる必要はいっさいありません。罪の下で罪の奴隷となっていた我らを、イエスキリストは、十字架の贖いの恵みを持って、我らを解放させ、自由を与えて、これからは神の子どもたちとして神の恵みを頂き、祝福の中でとどまることが出来るように導いて下さったと教えて下さっています。

### ローマ人への手紙6章22節、8章2、21節

「6:22節しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。/8:2節キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。/21節被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。」

ヨハネの黙示録1章5節には、

「また、忠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安が、あなたがたにあるように、イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解き放ち、」

愛するみなさん！そしてこの神の恵みと祝福をこの地上で経験する通路がまさに**礼拝**であるでしょう。生きておられる創造主、救い主を信じ、その神様を愛するため、神に礼拝を捧げることこそ、今も生きておられる神様のご臨在の中で実際の神の恵みと祝福が流され、注がれる方法であると信じます。

ところが、この祝福を引き続き我々が受けるためには二つの条件がついています。一つは、神様を愛すること(関係)と、もう一つは神様の戒めを守る(従順と実践)ことです。

どうすれば、我々が神様に最高の愛を表すことができるでしょうか。わたしはそれが礼拝だと信じます。あなた様のみがすべてを造られた唯一の創造主、真の神様であられ、あなたを心を尽くし、命を尽くし、力を尽くして愛する為、捧げる礼拝！！神様はそれをもっとも喜ばれるため、他の偶像の神々に拝むのを忌み嫌われるわけでありませぬ。

人は結局、自分が愛することを礼拝します。お金を愛する人はお金に頼り、拝み、礼拝します。知識を愛する人は知識がすべてかのように、拝み礼拝します。

人からの人気を愛する人は人気を崇拜し、快樂を愛する人は快樂を人生のすべてのように拝み礼拝します。それだけに向かって頼り、それだけを愛し、信じ込んでいるため、それが自分の人生の目的としてしか考えません。

しかし、愛するみなさん！これらのすべては神様が人生に与えられるプレゼントの一部だけです。これらはこのプレゼントを授けた主人を離れてはなんの価値がないものではないでしょうか。神様はソロモン王とおして、旧約聖書の伝道者の書を書き残させ、私たちにこう証して下さっています。1章では、**結局必死に人間の知恵だけ追求した人生の結果は、む**

なしかつた。2章では人生が味わい、求め続けて来た快樂も結局むなしかつたと。3章では人のすべての成功を目指し、必死にその機会を追求めたのに結果むなしいのだと、4章では人の権力と力を結局空しかつたと、5章では神様を離れた夢と目標の目指しても結果、むなしかつた、6章では財物(ざいもつ)のむなしさ、欲望のむさしさを証しています。

結局、伝道者の書の結論的なメッセージは何ですか。伝道者の書12章13節にはこう書かれています。

“結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。”  
伝道者の書は我々が若い時から神の御前で人生であることを常に覚え謙り、神様のみを恐れ、慕い求める時こそ、人生の真の満足と祝福であることを明確に教えて下さっています。ですから、子供たちに真の神様を教え、その神様のみを信じ、礼拝するように、導く親はずでに正しく子供たちを祝福に導いて下さっているのに間違いはないと信じます。

#### <4. 回復すべき礼拝の感激 >

もう一度今日の本文の6節を読んで見ましょう。

“わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。”

愛していない人の命令に従うことは、あまり嬉しくない重荷にすぎないと思います。しかし愛する人の言葉に従うことはむしろ幸せなことではないでしょうか。そして、愛する人と向き合う時はどれほど幸いな時でしょうか。結局、神様に正しい礼拝を捧げ、神の御言葉に従えることは、神様と自分との関係が大切である事を教えて下さっています。

マタイの福音書22章34-40節にイエスキリストは何が我々に一番大切であるのかを確かめて下さっています。

「しかし、パリサイ人たちは、イエスがサドカイ人たちを黙らせたと聞いて、いっしょに集まった。そして、彼らのうちのひとりの律法の専門家が、イエスをためそうとして、尋ねた。『先生。律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。』そこで、イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』これがたいせつな第一の戒めです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。』(マタイの福音書22章34-40節)

愛する信仰の家族のみなさん！愛というのは一人ではできないでしょう。相手がいてできることです。

そして愛とは、関係の中で現されるものであります。

祝福される信仰生活とは何ですか。一言でまとめて言いますと、神様を愛することが信仰生活の中神の祝福を頂ける一番の近道であります。

私たちに大切にして祝福される関係！それはまず縦の関係としては、神との関係であると教えて下さっています。

そのようになっている者こそ、横の関係、人、隣人との関係も大切に愛し合って行ける事を教えて下さっています。

まず、神を愛すること。そして、それが可能ものこそ同じように大切なこととして、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せる」と聖書で神様は約束されています。

ある人は、このように考える人がいます。‘日本人は八百万(やおよろず)の神々の中で多くの神々と仲良くしていけばいいのに、キリスト教は唯一神で、なぜ他の神を認めないのか、とても独占的、閉鎖(へいさ)的だから、日本には合わない。神様というのは人間が幸せになるのを助けてくれるのが神であり、神様を愛することを求められるのであれば、私のこと、わたしの大切なこと全部がなくなってしまう。私がなくなるから、宗教はいらない。’と。

しかし、聖書を見ると、神様がそこまで私たちからの愛を求めるといことは、神様がまず私たちをそのように愛しているから求めておられるとおっしゃっています。

人間は自己中心だから、自分がやっていないことを人に求めるものの、神様はご自身がまずそうやっておられることを人に求められます。聖書のすべての命令は、神様ご自身が人に対して、ご自身が今もそのようにしておられるからであります。

神はイエス・キリストという大切なひとり子を我ら一人一人の救いのために与えて、十字架にかけて我のために、御子イエスキリストを死なせるほど、私に対してすべてをかけて愛して下さった。そこまで惜しまずに我らに愛を与えられた神であります。だから、私にも愛を求められます。(例え夫婦関係)

愛するクリスチャンプレイズ信仰の家族のみなさん！健全で健康な家族みんなが自分のように愛し合える、愛を持って仕え合う関係こそ、地上で一番祝福されている家庭ではありませんか。そうするために、神をまず心から愛するべきであり、その愛の表した大事な一つが礼拝であることを忘れないで下さい。なので、礼拝は大切です。なので、礼拝の姿、その心構え、姿勢を見ると、その人が本当に神を愛しているかどうかがある程度分かるのではないのでしょうか。神様なら、なおさらみなさんの心の中心、心の全てを今すぐに見つめておられ、知っておられます。

表の礼拝を捧げようとする形ではなく、礼拝を捧げている我々の心の中心を見ておられる神様です。神を心から信じ、愛するために捧げている礼拝なのか、今ご自身を顧みて見て下さい。教会でだけではなく、みんさんの家庭の中でも神を愛するがゆえに家族が共に祈り、共に賛美し、共に御言葉を愛し、礼拝する家庭になれば間違いなく、神の恵み豊かにみなさんの時代だけではなく、子供、その後千代に至るまで注がれる祝福の源となる家庭になれると信じます。みなさん

の家庭の中に神様がおられるでしょうか。イエスキリストがおられますか。みなさんの家庭を主が今も治め、導いて下さるように、主の御手に委ねて切って見ませんか。

みなさんは最近礼拝の恵み、感激にしみ、経験されているでしょうか。今日教会に来られ、礼拝の座に座っているながら、自分の心を支配していることは何でしょうか。静まって考えてみてください。お金ですか。そしたら、お金の偶像を拝んでいることです。仕事のことでしょうか。このような邪魔物が神様を礼拝する関係を妨げ、感激を失わせるのです。

**私はみなさんがほかの何よりも神様にささげる礼拝することに成功するみなさんとみなさんの家族となるようにと切に願っています。その礼拝への成功は神を愛する関係と心、信仰に左右されます。**

**みなさんの愛する子供たちにもお金いくら、他の財産よりも、一生神を愛し、神様に礼拝することを第一に大事に守り捧げる事により、神のさらなる恵みと祝福を継がせる信仰の名門となりますように祝福を切に祈ります。**

みなさんの家庭が神様を愛し、真心をもって礼拝を捧げる時、神様はみなさんの家庭のすべての関係をいやし、回復させてくださると信じます。

イタリアのボロニャー国立大学(Bologna)がヨーロッパの最初であり、世界最初の大学として知られています。この大学は本来1088年教会法とローマ法を教えて、教会の指導者たちと政府の管理たちを養成する目的として立てられた法科(ほうか)大学でした。この大学が始めは‘ユニベルシタス(universitas)’と呼ばれ、こんにちの大学という英語の単語である‘university’の起源にもなったのです。

この世界最初の大学の一日は神様に礼拝を捧げることから始まって、いつも礼拝で終わったそうです。

なぜなら聖書に書かれているように神様を恐れることが知識の始めである(箴言1:7)教育というのは決して知識だけの伝達ではなく、神へのその態度と人格の形成であると信じたからです。

ボロニャー大学に残されている文献によると、この大学は神様に礼拝することを学校生活の第一として守るという誓約を親と学生たちからもらってから入学を認めたそうです。このような教育精神の起源は聖書に記録されている十戒でした。当時、十戒の教訓は学校生活と教育の中心であり、家庭生活の基準だったのです。

人が自分の為に作り上げられた様々な偶像の神々に拝まず、そのようなものを作らず、頼らず、今日から私と我らの家庭は真の創造主であり、救い主である神様のみが我々の家庭の主人となられ、すべてをおさめ、守り、祝福され、これからも正しく導いてようにゆだねましょう。神様を愛する信仰の家庭、神様だけに真心をもって礼拝する家庭となって千代にまで神様の恵みと祝福が絶え続く信仰の名家となるクリスチャンプレイズの全家族となりますように主イエスキリストの御名によって切にお祈り致します。アーメン!

